

# 財務リストラとは

## Q. 財務リストラとは何か？ どのような方法があるか？

### 要旨

- ・財務リストラは、バランスシートの観点から、企業の財務内容の改善、キャッシュフローなどの収益力向上を実現することを目的とします。
- ・財務リストラは、資産売却による債務の圧縮の他、資産面、資本面、債務面からの改善手法に分けて考えることができ、財務内容やキャッシュフローの改善効果、課税問題などを検討して実行する必要があります。

### 解説

#### 1. 財務リストラの基本的な考え方

経営不振企業の経営改善のためには、事業面・業務面の改善と合わせて、その企業の財務体質の健全化が欠かせません。

事業面・業務面のリストラクチャリングが主に会社の収益力、すなわち損益面からの視点であるのに対して、財務リストラクチャリング（以下、財務リストラ）は会社の資産、負債、資本の改善策、すなわちバランスシートからの視点で会社の財務内容の改善、キャッシュフローなどの収益力向上を実現するという考え方です。

#### 2. 財務リストラの手法

財務リストラの具体的な手法を整理するに当たっては、資産、資本、債務といった区分で考えると分かりやすいでしょう。

##### ①資産面からの財務リストラ（所有資産の処分、整理など）

財務リストラの中で、真っ先に検討すべきなのが、所有資産の売却または有効活用により、得た資金を債務の弁済に充当するという手法です。担保権者との交渉を除けば、会社自身の意思で実行可能です。具体的には、遊休資産の売却、流動資産の資金化、資産の有効活用といった手法が考えら

れます。

##### ②資本面からの財務リストラ（増資、私財提供など）

増資や経営者の私財提供（贈与）などによって資本増強するという手法は、財務内容の改善に効果的です。増資と減資を併せて行うことによって、バランスシート上の欠損金を解消することも考えられます。

##### ③債務面からの財務リストラ（債務の削減、返済の組替など）

債務面からの財務リストラとしては、リスケジュールなど、債権者からの支援によって、財務内容を改善する手法が一般的です。また、対象は限定されますが、債務免除などの債務削減は、自己資本、キャッシュフローの改善において効果的です。

# 財務リストラの考え方

## ＜ご提案のポイント＞

- ・財務指標等を活用して、自社の財務内容を検証することにより、課題が見つかります。
- ・現状の課題が明確になったら、改善の方向性を検討してみましょう。
- ・自社の財務内容、置かれている状況等により、最適な財務リストラの手法を考えましょう。

## 1. 会社の財務面の改善はなぜ必要か

会社のバランスシートに関する指標には、「自己資本比率」等の安全性、「流動比率」等の短期的な流動性のものがあります。一般的にこの比率が良好なほど、会社の財務基盤は安定していると判断されます。逆にこれらの指標が低い場合には、利益から借入金の返済が賄えない、または負債の利子によって経常利益がマイナスになってしまうという形で、損益面やキャッシュフローに悪影響が出てくることもあります。

また、金融機関も融資の際に、会社の財務状況を重要な判断基準にしていますから、融資を受ける上でも不利になります。財務内容の判断においては、できれば決算書だけでなく時価ベースのバランスシートによって検討すべきです。

## 2. 健全な財務内容とは

それでは、財務内容が健全とはどのような状態を指すのでしょうか。

債務超過でないことはもちろん、減価償却計上前利益、EBITDA といった弁済能力を表す収益指標に対する債務残高の割合（債務償還年数）が適正であること、すなわち適正な資産・負債バランスになっていることが重要です。併せて事業面の改善を行い、利益、キャッシュフローが改善することが求められます。

## 3. 財務リストラの手法

財務リストラには、以下のような手法があります。このうち資産面からの手法は会社自身の意思で実行可能であり、自社の財務内容等を考慮して検討すべきでしょう。

資産による手法	遊休資産の売却、流動資産の資金化、資産の有効活用等
資本による手法	増資、経営者の私財提供等
負債による手法	リスケジュール、条件変更等